

## 歴史講座

「了春寺地蔵と本源寺地蔵の由来  
～米子三十六地蔵選定に寄せて～」

講師

元新修米子市史編さん協議会専門委員  
浜田 幸夫 氏

講師略歴：平成14年読売新聞大阪本社退職。平成14年新修米子市史編さん協議会現代部会専門委員。  
平成19年よなごの宝選定実行委員会委員。平成20年新修江府町史編纂委員。平成21年米子市水道80年史執筆。平成22年よなごの宝実行委員会副代表。

この度は「啓成公民館がくゆう会」の歴史講座で、不肖私めに講演をさせて頂くことになり、ありがとうございます。私は『新修米子市史』や『よなごの宝八十八』の編さんに従事し、そこで得た知見を基に、地域の隠れた歴史文化について謎解きをしながらお話をさせていただきます。(浜田)

## 【講演要旨】 米子三十六地蔵に選定された

了春寺地蔵と本源寺地蔵にスポットを当てます。

## ◇了春寺

- 1、亀島(清洞寺岩)の歴史
- 2、了春寺地蔵の成り立ち
- 3、亀趺(きふ)(亀の形をした台座)に建つ謎
- 4、亀趺のいろいろ

## ◇本源寺地蔵

- 1、本源寺は了春寺の末寺
- 2、事物から見た本源寺の所在
- 3、地域が守るお地蔵さん



## 新聞記者数え歌(講師さんの現役時代)

- 一つ 一人で書くのを 特ダネ原稿と申します  
意気が弾みます
- 二つ 二人で書くのを 手分け原稿と申します  
段が入ります
- 三つみんなで書くのを 発表原稿と申します  
行数同じです
- 四つ 夜中に書くのを 泊まり原稿と申します  
酒が滲みます
- 五つ いつも書くのを 得意原稿と申します  
メモはいりません
- 六つ 無理やり書くのを 捏造(ねつぞう)原稿と申します  
後が祟(たた)ります
- 七つ 泣く泣く書くのを 抜かれ原稿と申します  
涙滲みます

## 了春寺地蔵尊の謎

地蔵尊が了春寺に移された時代は？



『米子界限』 野坂 寛治説

本堂にシリを向けて、不洗観音と並ぶ丈余の地蔵尊が目をむいて立つ。この地蔵さんは、もと錦公園に心中者の供養の法華塚とともに篤志家が建立したものを、明治39年ごろ、勇敢な井上郡長が加藤家の五輪塔とともに、ここに移転を強行したもので、五輪のあるものは海に投げこんだのだから、このお地蔵さんはマア合わせかもしれない。

『米子点描』 影井 亮説

境線博労町駅の踏切を越えて、右に坂道を上る。カメの上に立つ大きな地蔵さんは、錦公園の亀島から寺と一緒に移したものだという。お地蔵さんの足元に首のとれた五百羅漢がある。

上記の共通点は、亀島にあったのを現在地に移転した。

### 亀趺（亀の台座）の話

亀趺は中国の後漢（1～2世紀）以降に出現しました。

五行思想（五つの元素＝木・火・土・金・水が天地を

行き交い万物を構成する）四神（東＝青龍・西＝白虎・南＝朱雀・北＝玄武（亀の甲に蛇が巻きついた霊獣）人が死ぬと魂が残り、亀は魂を天上に運ぶ役をする霊獣との考えで亀趺が造られるようになったと考えられます。

ただ墓ではなく、功績を称える顕彰碑として用いられ、貴族以上の身分の高い人でなければ、認められませんでした。

この思想が、新羅後期（9世紀ごろ）朝鮮半島に伝わりました。日本では朝鮮半島の影響が見られ、9世紀末に渡来しました。最初は舍利塔に用いられ、江戸時代になってから、諸大名が盛んに造るようになりました。亀趺の形式には「獣首」と「亀首」があり、中国は「亀首」、朝鮮半島は両方が混在しています。日本では江戸時代初期までは「獣首」が主流で、その後は亀首と混在しています。

### 了春寺の地蔵尊

了春寺の地蔵尊は、亀趺を伴い万物輪廻の思想を具現し、崇高で貴重な石像文化財であります。鳥取藩主池田家の歴代の墓碑は亀趺を伴っており、米子城主・池田由成が両親の菩提寺・海禅寺を開創し、五輪塔を建立した時に亀趺の地蔵尊を建立したと推測されます。

地蔵尊が移設された時代は、四代城主・荒尾成倫が禅源寺を了春寺に改め、博労町に移した時に地蔵尊も一緒に移したと思われ、影井説に整合性があります。

形あるものは朽ちるのが自然。だが、こうした石像文化を継承することも大切です。可能であれば、二代目の亀趺の地蔵尊を建立し、米子城史の資料とするとともに荒尾家菩提寺シンボルとしての認識を深めたい。

## 了春寺年譜

- 指月山曹溪院 慶長 15 年(1610)加藤貞泰が父の菩提寺として開創
- 亀島山海禪寺 元和 5 年(1619)池田由成が父母の菩提寺として開創
- 大亀山禪源寺 寛永 9 年(1632)荒尾成利の兄・嵩就が開創。荒尾家の菩提寺とした。寺号額を木庵和尚が揮毫。
- 禪源山泰蔵寺 元禄 8 年(1695) 10 月 5 日、荒尾成倫の時に泰蔵寺に改める。元禄 10 年臨済宗黄檗派に属す。独吼が開山。扁額を揮毫。
- 祥光山了春寺 宝永 3 年(1706)激浪のため、荒尾成倫によって現在地に移す。明治 9 年(1877)に黄檗宗に改宗。
- 善久山本源寺 宝永 7 年(1710)了春寺二世・江天和尚によって開創、了春寺の末寺。

## 米子三十六地蔵指定 本源寺地蔵

地蔵名 本源寺地蔵（米子城主・荒尾家ゆかりのお地蔵さんです）

所在地 米子市博労町3丁目（小字 本源寺跡）

ご利益 ◇健やかな成長◇暮らしの安寧。

由来 この地には「本源寺跡」という小字名が残っています。

宝永3年（1706）に第4代米子城主・荒尾成倫が亀島（清洞寺岩）にあった荒尾家菩提寺の泰蔵寺を博労町に移し、寺号を了春寺に改めました。

善久山本源寺はその4年後の宝永7年（1710）、了春寺三世・江天和尚によって同寺の近くに了春寺の末寺として開基されたといわれています。寺号は成倫の法名「本源院殿前但州刺史天真了覚大居士」にちなんだものと思われています。

成倫は元禄5年（1692）、9歳で家督を相続し、享保19年（1734）、51歳で没するまで42年間の長きにわたって自分手政治を担いました。本源寺跡に建つ仏塔には肉太の文字で「南無阿弥陀佛」と刻まれ「元禄十二」の記銘があり、同年（1699）に建立されたと思われます。仏塔は本源寺開創より11年早く建てられたこととなります。仏塔と本源寺の建立は城主在任中の成倫が深くかかわったことが伺われます。

本源寺が廃寺になった年月は不明ですが了春寺境内にある本源寺四代・浄傳和尚の墓碑には「寛政九年」（1797）と刻まれており、このことから本源寺は宝永7年から寛政9年までの87年間と、それ以上の年月の間、存在していたと思われます。

仏塔の両脇に2体の地蔵があり、向かって右は文化9年（1812）に建立。胴には衣をまとった様子が認められますが風化がひどく、はっきりした形体は分かりません。建立当時のものと思われています。首はコンクリートで胴部と接続されており、後世に据え付けられています。

向かって左は寛政10年（1798）に建立されました。台座は建立当時のものですが、蓮座と首は昭和2年（1927）に作られ、据え付けられています。左右双方とも、首が据え替えられるなど、明治時代の廃仏毀釈運動のあおりを受けたものと思われています。

現況 近くの住民が日常的に花を手向け、水を供えて祀っています。地蔵盆には子供や世話人が寄付金を集めてお供え物を施し、了春寺住職による読経の後、お年寄りたちが御詠歌を奉納し、子供たちの健やかな成長と地域の安寧を祈っています。この行事は昔から連綿と続き地域の年中行事です。また多くの方々も札打ちにお参りされています。

仏塔の記銘 「南無阿弥陀佛」「元禄十二」「卯三月」（卯は卯の意か）

地蔵（仏塔に向かって右）の記銘（台座の左面）「文化 九申」「□□屋」「□彌左衛□」

地蔵（仏塔に向かって左）の記銘（台座の正面）「寛政十□」「奉献」（寛政九年は浄傳和尚の没年）

（台座の右面）「發起」「松田屋」「与三右エ門」

（台座の左面）「麴町 観音講中」

（台座の後面）「石工 惣□」

（蓮座の後面）昭和二年 世話人 山本弥太郎 浅田伸治郎赤尾松太郎 中村未之助  
中島政太郎 河崎仁三郎

仏塔の特徴 元禄12年（1699）に建立。仏塔と台石はコンクリートで固めてあります。後世に補強されたのか、または移動されたのかが伺われます。

仏塔の寸法

地蔵の寸法（仏塔の右側）

地蔵の寸法（仏塔の左側）

単位：cm

高さ	195
幅	41
奥行	30

	台座	蓮座	地蔵
高さ	42.5	15.5	59
幅	41.5	46	最大38
奥行	42.5	37	22

	台座	蓮座	地蔵
高さ	42	14	62
幅	42	48.5	最大42
奥行	41	32	20.5

参考文献：『新修米子市史』『鳥取藩史』 文責：浜田幸夫（元新修米子市史編さん協議会専門委員）

## 米子三十六地蔵一覧表 (米子観光まちづくり公社選定)

番号	地蔵名	番号	地蔵名	番号	地蔵名
1	ひょうたん小路地蔵 (道笑町2丁目)	13	つなぎ地蔵 (尾高町)	25	みなと地蔵 (灘町2丁目)
2	<small>えのき</small> 榎地蔵 (糺町2丁目)	14	寺町地蔵 (尾高町)	26	清洞地岩蔵 (西町)
3	延命院地蔵 (糺町1丁目)	15	<small>よたろう</small> 与太郎地蔵 (立町1丁目)	27	塩町地蔵 (塩町)
4	<small>こやす</small> 子安地蔵 (糺町2丁目)	16	延命地蔵 (岩倉町)	28	<small>ふくごういん</small> 福厳院の六地蔵 (寺町)
5	法勝寺町橋地蔵 (法勝寺町)	17	天神橋地蔵 (天神町1丁目)	29	瑞仙寺の六地蔵 (寺町)
6	土橋地蔵 (法勝寺町)	18	<small>なかんたな</small> 中ノ棚橋地蔵 (天神町2丁目)	30	安国寺の六地蔵 (寺町)
7	<small>ゆうがどう</small> 瑜伽堂地蔵 (紺屋町)	19	塚と橋地蔵 (天神橋2丁目)	31	城山大師の地蔵 (久米町)
8	善光院橋地蔵 (四日市町)	20	<small>はしもり</small> 橋守り地蔵 (内町)	32	<b>了春寺地蔵 (博労町2丁目)</b>
9	<small>やぶね</small> 藪根橋地蔵 (東倉吉町)	21	橋番地蔵 (灘町1丁目)	33	<b>本源寺地蔵 (博労町3丁目)</b>
10	<small>わら</small> 咲い地蔵 (東倉吉町)	22	法蔵寺の地蔵 (寺町)	34	光西寺地蔵 (博労町1丁目)
11	出現地蔵 (西倉吉町)	23	心光寺地蔵 (寺町)	35	法城寺地蔵 (博労町2丁目)
12	<small>かわも</small> 川守り地蔵 (西倉吉町)	24	青石地蔵 (灘町2丁目)	36	柳井地蔵 (愛宕町)